

# 熊谷市史編さん委員会・専門部会 報告

(令和六年一月～二月)

## I 熊谷市史編さん委員会報告

### 令和五年度 第二回 熊谷市史編さん委員会

当回の会議については、書面による審議とした。

#### 【概要】

##### ○議 事

〔報告事項〕

次に掲げる事項について、報告を行った。

#### ①各専門部会の活動について

令和五年度における各専門部会（中世専門部会、近世専門部会、近代・現代専門部会、仏像・仏画専門部会、地形・地質・気候専門部会）の調査等の活動の状況について報告を行った。

#### ②事務局（市史編さん室）の活動について

『熊谷市史料集8 熊谷自由民権運動史料2「七名社」の時代 続編』の刊行について報告を行った。

### 令和六年度 第一回 熊谷市史編さん委員会

日時 令和六年八月十九日（月）午後二時開会  
場所 熊谷市立熊谷図書館 第一講座室

#### 【概要】

##### ○委嘱状交付

役員の交代で新たに委嘱した当委員会委員一名に対し、委嘱状を交付した。

なお、新委員は、次のとおり。

内田 英樹 氏（市民団体の代表者）

○議 事

〔説明事項〕

市史編さん委員会条例第六条第一項の規定により、委員長が議長となり、次に掲げる事項について、事務局から説明を行った。

〔説明・報告事項〕

次に掲げる事項について、報告を行った。

一 令和五年度事業報告について

①熊谷市史編さんについて

熊谷市史編集委員、熊谷市史編さん大綱、各専門部会等について事務局から説明を行った。

②各専門部会の活動について

令和五年度における各専門部会の調査等の活動の状況について、部会長又はそれに代わる出席委員から委員の出席がない部会については事務局から、それぞれ報告を行った。

③事務局の活動について

本年度、これまでの期間に市史編さん室が行った活動のうち、古文書等の調査及び整理に関することや、寄贈文書・資料のうち特筆すべき資料の紹介を行っ

た。

二 令和六年度事業計画について

①令和六年度 熊谷市史・各専門部会の活動（計画）

各専門部会の活動計画について事務局から説明を行った。

②令和五年度刊行の『熊谷市史調査報告書 仏像・仏画

2』について

同書の編集を担当している熊谷市史仏像・仏画専門部会所属の西口委員から、その概要（体裁、内容等）、に関する説明を行った。

③令和六年度刊行予定の『熊谷市史 資料編3 近世1

（熊谷地域編・宿場）』について

同書の編集を担当している北村委員長から、その概要（体裁、内容、書名等）について編集の進捗状況等に関する説明が行われた。

（文責 田邊 むつみ）

## II 専門部会活動報告

### 一 中世専門部会

中世専門部会長 高橋 修

・『熊谷直実、浄土にも剛の者とや沙汰すらん』を執筆された佐伯真一氏との座談会を検討する。

令和六年度第一回 調査報告書 直実・実盛伝説編集会議

(令和六年七月二十九日 オンライン)

主に、九月に実施される座談会についての検討、事前打ち合わせを行った。

令和六年度第二回 調査報告書 直実・実盛伝説編集会議

(令和六年九月一日 市立熊谷図書館)

次のテーマで報告を行った。

・部会長「源平合戦図屏風、芸能・文芸の中の直実・蓮生」

・大井教寛「熊谷氏の系図とその記述について」

・蛭間健悟「長井斎藤氏系図について」

座談会「熊谷直実・蓮生 その実像と伝説」

詳細については、一〇三八頁参照。

座談会終了後、佐伯真一氏から、熊谷直実伝説についての調査方法や史料について御指導いただいた。また、

当専門部会は、平成二四年度に「資料編2 古代・中世」、平成三〇年度に「通史編上巻 原始・古代・中世」、令和三年度に中世石造物担当班が「調査報告書 中世の石造物」を刊行した。現在は、「調査報告書 直実・実盛伝説」の編さんを行っている。

令和五年度 調査報告書 直実・実盛伝説編集会議

(令和五年三月一三日 オンライン)

1 活動報告

2 本の体裁等の検討について

・二分冊とし、本編は一色、別編はオールカラー

3 掲載史料及び収録方法等について

・各担当が、一年ごとにテーマを決めて作業を行い、それぞれの成果を持ち寄り、編集会議で報告する。

『熊谷直実 浄土にも剛の者とや沙汰すらん』のために収集した資料についても、当事業のためにお貸しいただいた。この場を借りて深くお礼申し上げたい。

## 二 近世専門部会

近世専門部会長 北村 行遠

令和六年、近世専門部会は『熊谷市史 資料編3 近世1（熊谷地域編・宿場）』の刊行に向け活動した。

専門調査員は各自が事務局と連絡をとりながら、担当する章・節に採録する資料の内容確認・調査をおこなう、資料の選定と翻刻、また章・節の構成を練り上げた。専門調査員各自の採録案と構成案は、部会長と専門調査員とからなる専門部会会議において議論・調整をおこなった。また必要に応じて本巻の担当者（石山専門調査員）を中心に関係者とともに開催した巻担当者会議では、採録資料や構成案の問題点、専門部会会議で示された課題などを整理する作業をおこなった。そのうえで原稿化を進め、印刷業者への入稿を済ませた。一部の章については校正に入りつつある。

専門部会会議は、令和五年度の第二回、令和六年度の第一回の計二回を開催し、その内容は後述する。巻担当者会議については、二月・三月・九月の三回開催し、専門部会会議で出された方向性なども踏まえ、掲載資料や構成等の詳細について調整作業をおこなった。

なお今後、刊行へ向けた最終的な編集・調整のため、必要に応じて巻担当者会議を開催する予定である。

以下、専門部会会議での活動概要を記す。

令和五年度 第二回専門部会会議（令和六年一月一日）

### ①事務局報告

筆耕原稿および章・節の構成案の提出状況について報告。

### ②『資料編3』の編集・刊行

・専門調査員各自が、収録資料リストおよび章立て案を提示し、進捗状況や問題点について言及。  
・各自の採録内容、また作業状況について意見交換および確認をおこなった。

### ③今後の活動、その他

・早急に資料翻刻を終わらせ、章立て案とともに事務局へ送付する。

- ・原稿が大方集まったところで、次回部会を開催し、原稿内容の調整を図る。

- ・事務局は提出された筆耕原稿を入稿用に形をととのえ、部会長に送付。部会長が内容確認。

- ・事務局が筆耕を請け負う体制も、整えたい。

令和六年度 第一回専門部会会議（令和六年八月二一日）

### ①事務局報告

- ・令和六年度の事務局の体制（新室長の着任、『資料編3』編集に携わる会計年度職員一名増員）について報告、説明。

- ・資料筆耕を円滑に進めるため、外部の方へ資料翻刻を依頼している旨、報告。

- ・筆耕原稿および章節の構成案の提出状況について報告。

### ②『資料編3』の編集刊行

- ・『資料編3』の正式名称を、『熊谷市史資料編3 近世

- 1（熊谷地域編・宿場）にすることに決定。これにより、次巻の副題は『熊谷地域編・村方』とする。

- ・専門調査員各自が、収録資料リストおよび章立て案を提示。構成や資料掲載について意見交換・すり合わせ

をおこなった。

### ③今後の活動、その他

- ・今回の議論をもとに、掲載資料と章立ての確定を早急に進め、事務局へ伝える。

- ・解説を事務局へ提出。

### 三 近代・現代専門部会

近代・現代専門部会長 老川 慶喜

近代・現代専門部会では、『熊谷市史資料編6 近代・現代1 熊谷地域編上』及び『熊谷市史資料編7 近代・現代2 熊谷地域編下』（以下、『資料編7』という。）の刊行に向けて活動した。

専門部会会議を二回（二月・九月）、『資料編7』の担当者会議を三回（四月・六月・九月）開催した。

また、熊谷市行政文書及び熊谷市行政古文書、新聞記事の調査を随時実施した。その他、埼玉県立文書館を始めとした関係機関等でも所蔵資料調査を行った。

## 専門部会会議

### 令和五年度第二回近代・現代専門部会会議

(令和六年一月二〇日 熊谷市立商工会館)

令和五年度第二回『資料編7』担当者会議(令和五年一月一九日)の報告、目次及び掲載資料リストの検討を行った。その後、各委員から進捗状況を説明し、不明点等を協議して認識の共有を図った。

### 令和六年度第一回近代・現代専門部会会議

(令和六年九月二九日 市立熊谷図書館)

令和六年度第一～三回『資料編7』担当者会議の報告及び今後の刊行スケジュール、各委員の進捗状況の確認等を行った。

## 担当者会議

### 令和六年度第一回『史料編7』担当者会議

(令和六年四月二〇日 市立熊谷図書館)

令和七年度の刊行に向けて、今後のスケジュールを協議し、今年度末には執筆を完了する予定とした。その他に、目次及び掲載資料の検討、各委員からの進捗状況の

報告等を行った。

### 令和六年度第二回『史料編7』担当者会議

(令和六年六月一五日 市立熊谷図書館)

主に執筆要綱、付録、口絵等の検討を行った。その後、各委員の進捗状況について確認した。

### 令和六年度第三回『史料編7』担当者会議

(令和六年九月二九日 市立熊谷図書館)

前回に引き続き、執筆要綱、付録、口絵について協議を行った。事務局から原稿頁数及び掲載予定資料等の現状について報告をうけた。刊行スケジュール通り年度末を原稿の締切期限とすることを確認した。

## 四 地形・地質・気候専門部会

### 地形・地質・気候専門部会長 島津 弘

#### 1 概要

地形・地質・気候専門部会では、令和八年度に刊行予定の『熊谷市史 別編3 自然編1 地形・地質・気候』

(以下「別編3」という。)の編集に向けた資料の探索と別編3の体裁の検討が主な活動となった。

各編集委員と事務局の双方で資料の整理及び探索を行った。資料探索は市立妻沼展示館や、市立熊谷図書館等で行い、ポーリングデータや地図等の収集、撮影を行った。

## 2 編集会議の開催

令和六年においては、編集会議を三回開催し、別編3に掲載する内容(目次)等の確定や別編3の体裁について議論した。以下、各会議における議事の概要、決定した事項等を記載する。

### ○令和五年度第三回専門部会会議

(令和六年三月二六日 立正大学熊谷キャンパス)

#### ①令和五年度における調査について

令和五年度に各編集委員が行った調査について報告し、主に収集したデータの共有を行った。

#### ②令和六年度における調査予定について

令和五年度に行った調査を基に、各編集委員が報告

を行った。主に調査が及んでいない箇所を中心に調査を行うこととした。また、令和五年度で行った調査で収集したデータの解析も含めて、今後進めていくこととした。

### ○令和六年度第一回専門部会会議

(令和六年五月三〇日 立正大学熊谷キャンパス)

#### ①本の体裁について

別編3の体裁について、熊谷市史別編2妻沼聖天山の建築を参考に、以下の様に決定した。

- ・ 頁数 三〇〇～四〇〇頁 一段横書き
- ・ オールカラー印刷
- ・ 付録 地図二～三枚

#### ②本の構成について

体裁同様、熊谷市史別編2妻沼聖天山の建築を参考にした。

- ・ 章立ては、原則「見出し」まで作ることにした。
- ・ 節ごとの頁数について、一節あたり約一〇頁とした。

また、次回会議までに委員ごとに執筆部分の目次を

作成してもらうこととした。

○令和六年度第二回専門部会会議

(令和五年十一月二日 熊谷市立妻沼展示館、オンライン併用)

①掲載内容(目次)について

前回の会議後、編集委員がそれぞれ作成した目次案を参考に、目次の検討を行った。分野によっては掲載箇所が重なるため、その調整を主に行った。調整を行った後、現段階の目次では、節数が二六節となった。

②事務局分、各章の頁配分について

各頁数について、以下の様になった。

・目次等については、約五〇頁とした。

・編集委員が執筆する箇所は、第一回会議で決定した項目と照らし合わせ、二六〇頁とした。

・現段階での全体の頁数は三二〇頁となった。

③執筆要綱について

過去の熊谷市史刊行物の執筆要綱を参考にして、編集委員の意見を交えて作成した。今回作成した執筆要綱は、今後も適宜更新していくことにした。

また、次回会議(令和六年度第三回専門部会会議)について、令和七年二月末までに行うこととした。

五 仏像・仏画専門部会

仏像調査専門部会長 林 宏一

1 仏像・仏画悉皆調査

平成二五年度から調査を開始し、令和六年度は一三年目となる。

調査内容は、写真撮影や寸法や形状・材質等を記した調査カードの作成等である。この一年間で二五〇点超の仏像・仏画等の調査を終えた。一二年間の累計では、四、二〇〇点超の調査を行ったことになる。

令和六年に実施した調査は以下のとおりである。

- 1 上奈良えんま堂(一月二二日)
- 2 上奈良並木集会所(旧えんま堂仏)(二月二七日)
- 3 小泉常永寺(三月二五日)
- 4 中曾根金胎寺(三月二五日)
- 5 箕輪保安寺(五月一四日)
- 6 小八林大福寺(六月一日)
- 7 塩常安寺(六月一七日)

- 8 楊井薬師寺（七月九日）
- 9 万吉阿弥陀堂（一〇月二九日）
- 10 上恩田両昌寺（一〇月二九日）
- 11 中恩田金蔵寺（一一月一九日）
- 12 沼黒正福寺（一一月一九日）
- 13 津田西明寺（一二月一〇日）
- 14 妻沼展示館（津田西明寺十二神将像等）  
（一二月一〇日）

また、当専門部会で新たに確認した代東善寺の木造阿弥陀如来立像が埼玉県指定文化財に登録された。七月二日には部会長による講演会が開かれ、九月一日まで市立熊谷図書館郷土資料展示室で特別展示が行われた。

## 2 「調査報告書 仏像・仏画2」の編集・刊行

「調査報告書 仏像・仏画」は、全三巻を予定しており、すでに令和元年度に第一巻を刊行したが、令和六年三月に第二巻を刊行した。

本書の執筆は、部会長、原口雅樹専門調査員、西口由子専門調査員が担当した。写真の選定や報告書のレイアウト等もこの三名が行った。また、令和六年にはこれに

ついでに編集会議を一回実施した。

・令和五年度第四回編集会議 一月二四日

場所 妻沼中央公民館

最後に、調査や刊行にあたり、所蔵寺社、所蔵者、自治会関係者、協力者等には、多大な御協力をいただいた。心からお礼申し上げます。